

## 第1回日本・アフリカ科学技術大臣会合 議長総括（仮訳）

平成20年10月8日

日本及び32のアフリカ諸国の科学技術担当大臣、AU 委員会と NEPAD 事務局の代表は、2008年10月8日東京において会し、第1回日本・アフリカ科学技術大臣会合を開催した。この会合は、本年5月に TICAD IV において採択された横浜行動計画を受けて開催された。

参加した大臣たちは、科学技術は、経済・社会の発展を実現していく上で重要な存在であり、特にアフリカ諸国においては、成長の加速化を実現し、環境・エネルギーや感染症といったアフリカの抱える諸問題を解決していく上で欠かせないものであると認識した。

また、大臣たちは、アフリカ諸国との間での科学技術協力は、科学技術外交の強化を進める日本にとっても重要な協力活動であり、日本が有する優れた科学技術の成果を活用して、地球規模の課題を解決していく上で、日アフリカ間の科学技術協力は一層拡大していく必要があることを認識した。

このような認識を踏まえ、大臣たちは、日本とアフリカ諸国との間での科学技術分野における協力を一層拡大していく必要があるとの認識を共有した。また、日アフリカ間の科学技術協力を拡大していくための具体的な方策として以下の2つの活動を進めることで合意した。

- 相互理解促進のための政策対話メカニズムの創設
  - 日本・アフリカ科学技術大臣会合を継続的に開催する。会合は原則、隔年開催とするが、次回（2009年）の会合は、エジプトにて開催するとの同国提案を踏まえ、検討する。
  - 大臣会合での決定事項の実効性を確保するために、各国の科学技術政策当局者あるいは科学者から成るテクニカル・ワーキング・グループを設置し、第一回の会合を2009年に開催する。
  - 日本は、アフリカ諸国における科学技術政策と研究開発活動の現状についての理解を深めるため、関係政府機関及び研究機関の代表から成るアフリカ科学技術調査ミッション（仮称）を組織し、2009年上半期にアフリカ諸国へ派遣する。また、アフリカ諸国は同ミッションの派遣を歓迎し、受け入れにあ

たっては協力する。

- アフリカ諸国のコーディネータとして AU 委員会／NEPAD 事務局は重要な存在であり、日本政府及び AU 委員会／NEPAD 事務局は、連携をより強化し、政策対話の円滑な実施に努める。

- 日本・アフリカ間の科学技術協力の拡大

- 現在、関係各省において進められている多様な科学技術協力を、引き続き積極的に進める。
- 日本の科学技術振興機構(JST)及び国際協力機構(JICA)が実施する地球規模課題対応国際科学技術協力は、日本とアフリカの間での科学技術協力を促進する上で、極めて重要であり、本協力を積極的に活用して、日・アフリカ間の科学技術協力の拡大を図ることとする。